

21. 高知女子大学看護学会

高知女子大学看護学会は、看護学の進歩発展と、地域の看護職者の研鑽および看護の質向上に貢献することを目的として、看護学会の開催、公開講座の開催、高知女子大学看護学会誌の発行、奨学金の貸与などの活動を行っている。本学会の運営委員の約半数は、本学部の教員が引き受けており、学外の様々な現場で活躍している運営委員とともに活動に取り組んでいる。また、運営委員以外の学部の教員からも多くの協力を得て、これらの諸活動をスムーズに展開することができる。

1) 第 45 回高知女子大学看護学会の開催

令和元年 7 月 20 日に『人生百年時代の看護の SHIFT (シフト)』をテーマに、第 45 回高知女子大学看護学会を高知県立大学池キャンパスにて開催した。当日は卒業生・修了生をはじめ県内外の看護職者 153 名の参加を得て、活気ある学術集会となった。

午前中は、天使大学副学長の高木廣文先生を講師に「人生百年時代と健康格差一特に「死」の健康格差」のテーマでご講演いただいた。講演は、健康格差の問題が経済格差に起因するものとして対策が試みられていることが紹介され、果たしてそれだけで、格差の根本的な解決に至るのだろうかという問いから始まり、さらに死に焦点をあてると、スピリチュアル、すなわちキリスト教的な考え方が中心となり論じられていますが、日本人にとってのスピリチュアルとは如何なるものなのかと問いが進み、四国にも関連深い弘法大師空海思想の解釈が語られた。講演後のアンケートでは、「日本人として日本人の宗教的な思いや「信仰」と自覚していなくても根底に流れているものなど、援助専門職として自分自身の視野を広げることの重要性に気づかされました。又、そういった看護師を育てるの必要性を感じました。」「普段聞くことのできない宗教についての話題にふれることができ興味深かった。患者－看護師間の宗教観について、スピリチュアルについての看護師の素養について考えさせられた。」「私にとって、全く新しい切り口の話で新鮮でした。」などの意見が寄せられた。1200 年以上前に執筆された空海思想の新鮮さに驚き、私たち日本人の中にあるスピリチュアルを考えさせられる講義であった。

午後からは 7 つのワークショップを開催し、70 名が参加した。ワークショップでは、修了生や卒業生、教員の話者提供から、実践の体験をもとに各テーマに関する報告や発表がなされ、参加者との意見交換が行われた。

ワークショップⅠ：人生百年時代に向けての仕組みづくり

ワークショップⅡ：人生百年時代 老年期の多様な生き方を支える

ワークショップⅢ：病と共に生きる百年

ワークショップⅣ：人生百年時代を担う子どもの力

ワークショップⅤ：人生百年時代のライフキャリア

ワークショップⅥ：人生百年時代 新しいアプローチの開発

ワークショップⅦ：人生百年時代のキャリアデザイン

2) 高知女子大学看護学会誌の発行

学会誌を2巻発行した。詳細は以下の通りである。

・高知女子大学看護学会誌 第44巻2号：令和元年6月発行
原著論文8編、研究報告3編、平成30年度公開講座報告

・高知女子大学看護学会誌 第45巻1号：令和元年12月発行
原著論文10編、総説2編、研究報告4編

第45回高知女子大学看護学会報告、令和元年度高知女子大学看護学会総会報告

3) 2019年度 高知女子大学看護学会「公開講座」

2019年度の公開講座は、高知県立大学と共催し、2019年9月21日（土）に「やってみてわかる！看護の質的研究」をテーマに、第1回と第2回を開催、平成30年9月28日（土）に「やってみてわかる！看護の量的研究」をテーマに、第3回と第4回を、高知県立大学池キャンパスにて開催した。県内外から看護師や保健師、助産師、看護教員、大学院学生、学部学生の参加があった。

	タイトル	講師	日程
第1回	やってみてわかる！看護の質的研究 ①インタビューガイドの作成とインタビューの実際	高谷 恭子先生	9月21日 9:30～12:30
第2回	やってみてわかる！看護の質的研究 ②インタビューデータの分析	池添 志乃先生	9月21日 13:30～16:30
第3回	やってみてわかる！看護の量的研究 ①質問紙の作成	内川 洋子先生	9月28日 10:00～12:30
第4回	やってみてわかる！ 看護の量的研究 ②量的データ分析の進め方の実際	井上 正隆先生	9月28日 13:30～16:30

2018年度の公開講座では、どの回も20～30名の参加があり盛況であったが、2019年度はさらに参加者が増え、参加人数は延べで200名を超えた。内容についても満足度が高く、実施後のアンケート評価では、約94%の方が、満足～とても満足と答えていた。公開講座で研究方法をテーマに取り組み始めてもう数年がたつ。2017年度は参加者が減少し、他機関の研修内容との重なりも課題で、次のテーマを考えていくことも検討された。しかし、2018年度、2019年度と参加者が増加しており、研究方法を具体的に学びたいというニーズの高さを痛感している。今後も、参加者のみなさまのアンケートなどを参考にしながら、おもしろい公開講座を提供していけたらと考えている。

4) 奨学金の貸与

2019年度は奨学金への応募者は1名であった。奨学生選考委員会を6月30日に開催し、奨学金選考基準に従い応募者の選考を行なった。その結果を第45回高知女子大学看護学会総会で報告し、奨学生としての承認が得られ、1名に奨学金を貸与した。